

児童ホーム 自己評価 (令和7年度)

※評価記入欄

A (できている), B (ほぼできている), C (あまりできていない),
D (全くできていない), 該当しない場合は「-」

評価項目		評価 (A～D) 記入欄	評価の理由や取組内容等
施設 設備及 び	(1) 室内のレイアウトや装飾, 採光等にも配慮し, 児童が心地よく過ごせるように工夫されている。	A	季節感が出るような装飾や児童が学習や遊びの場として明るい空間で過ごせるように工夫した。
育成 支援 の 内容	(1) 児童の出欠席について保護者からの連絡を確認するとともに, 連絡なく欠席したり来所が遅れていたりする児童については, 速やかに状況を確認し適切に対応している。	A	無断欠席の場合には必ず保護者に連絡を行った。場合によっては学校に連絡し, 確認を行った。
	(2) 児童が安心できるように迎え入れ, 児童一人ひとりの心身の状態を把握し, 適切に援助している。	A	登所時のあいさつ等により, 児童の心身の状態などに気を配り, 支援員同士の情報共有を図り援助している。
	(3) 遊びや生活の場面における児童の状況や体調, 情緒等を把握し, 静養や気分転換が必要などときには適切に対応している。	A	体調を把握し, 無理のないスケジュールにしたり, 外遊びを見学させたり, 柔軟に対応を行った。
	(4) 児童全体に共通する生活時間の区切りをつくり, 柔軟に活用して児童が放課後の時間を自己管理できるよう援助している。	A	その日の予定や流れをボードに書いて説明し, 自分で考えて動くことができるように努めた。
	(5) 児童ホームでの生活を通して, 日常生活に必要な生活習慣を習得できるようにするとともに, 児童が集団で一緒に過ごす上で求められる協力及び分担や決まりごと等を理解できるように支援している。	A	基本的な生活習慣を身につけられるように声掛けを行い, 団体生活の中でのルールを伝えるよう努めた。
	(6) 年齢や発達状況が異なる児童と一緒に生活していることを考慮し, 児童が協力し合って児童ホームの生活を維持していくことができるよう支援している。	A	学年が違う子供たちが1つの班で過ごすことで, お互いの理解, 助け合い, 上の子が下の子の面倒を見るなど, 児童ホームで協力し合うことを日常として過ごせている。
	(7) 遊びや生活の中で生じる意見の対立やけんかなどについては, お互いの考え方の違いに気付くこと, 葛藤の調整や感情の高ぶりを和らげること等ができるよう適切に援助している。	B	対立した二人を離し落ち着かせ, 相互の言い分をしっかりと聞き気持ちを汲み取り共感しながら適切に導けるよう努めた。
	(8) 児童間でいじめ等の関係が生じないように配慮するとともに, 万一そのような問題が起きたときは早期対応に努め, 支援員が協力して適切に対応している。	A	児童の言動等について支援員間で情報共有を行い適切な対応がとれるよう努めた。

※評価記入欄

A (できている), B (ほぼできている), C (あまりできていない),
D (全くできていない), 該当しない場合は「-」

評価項目		評価 (A～D) 記入欄	評価の理由や取組内容等	
障がいのある児童への対応	(1)	障がいのある児童の受け入れにあたっては、児童の健康状態、発達の状況、家庭の状況、保護者の意向等を把握している。	A	児童の特性や環境により集団の中での支援が難しい場合もあるが、学校や保護者から得た情報を支援に活かすように努めた。
	(2)	継続的な育成支援を行うために、障がいのある児童について児童ホームでの状況や育成支援の内容を記録している。	B	日誌への記録と共に、会議や毎日のミーティングで特記事項を記載し、共通理解を図るよう努めたが、日によって記載が漏れてしまうことがあった。
	(3)	障がいのある児童の育成支援を行うにあたって、研修等を通じて障がいについて理解を深めることに努めている。	B	市や県が主催する研修に参加し障がいへの理解を深めるとともに、児童ホームにおいて他の支援員とも情報共有を行った。
児童に配慮を必要とする児童への対応	(1)	児童虐待の防止等に関する法律に基づき、児童ホームにおける児童の状態や家族の状況の把握により、児童虐待の早期発見に努めている。	A	児童を観察している中で違和感を感じた際には、支援員間で情報共有し、児童の様子を観察するよう心掛けた。
保護者との連携	(1)	児童ホームにおける児童の遊びや生活の様子を日常的に保護者に伝え、児童の状況について家庭と児童ホームで情報を共有している。	A	日常的に全利用者にお伝えすることは難しいが、家庭と共有すべき内容については、迎え時に保護者に伝えるように努めた。
	(2)	育成支援を通じて保護者との信頼関係を築くことに努めるとともに、保護者が相談しやすい雰囲気づくりを心掛けている。	A	笑顔での挨拶や明るい声掛けを通して、保護者と支援員とが話しやすい雰囲気を作れるよう心掛けた。
	(3)	保護者から相談がある場合には、保護者の気持ちを受け止め、相互の信頼関係を基本に保護者の自己決定を尊重して対応している。	A	保護者の意見や考えを真摯に受け止め、保護者の意思を尊重し、決定・解決となるよう努めた。
学校及び連携地域	(1)	児童の生活の連続性の観点から、児童の生活の様子や注意すべき点等について学校との情報共有を日常的、定期的に行っている。	B	定期的に学校と情報共有し、問題が生じた際には各学年(特に低学年・支援学級)担任とも情報共有するように努めているが、連携が十分に図れていない児童ホームもあった。
	(2)	放課後子ども教室を実施している学校については、教室のスタッフと支援員との間で情報交換を行い、教室への参加児童を把握するほか、配慮を必要とする児童の対応や児童の体調面等についての情報共有を図っている。	B	学校により対応が異なるが、参加している児童の出欠席等情報共有はなされている。

※評価記入欄

A (できている), B (ほぼできている), C (あまりできていない),
D (全くできていない), 該当しない場合は「-」

評価項目		評価 (A～D) 記入欄	評価の理由や取組内容等
衛生 管理 及 び 安全 対策	(1)	手洗いやうがいを励行する等、日常の衛生管理に努めるとともに、おやつを提供する際には衛生管理及び児童ホームとしての食物アレルギー対応を徹底している。	A 日常的に手洗いうがい等の衛生管理に努め、アレルギー児についてはメニュー表を事前に保護者に配布し確認したもののみ提供し、提供前の確認は複数名で行うなどアレルギー対応の徹底を図った。
	(2)	日常の遊びや生活の中で起きる事故やケガを防止するために、室内及び屋外の環境の安全性について毎日点検を行っている。	B 月に一度の安全確認と室内外共に日常的に児童が安全に過ごせるよう声を掛け合い目視で安全管理を図っているが、外遊び時の遊具やグラウンドの状況までは行えないことがあった。
	(3)	児童の年齢や発達の状況に応じ、児童が自らの安全を守るための行動について学習し、習得できるように援助している。	A 火災や地震を想定した避難訓練のほか、不審者侵入対策訓練を行い様々な場面を想定した訓練を定期的実施した。
	(4)	児童ホーム内での感染症の拡大を防ぐような取り組みを行っている。	A 手洗いの励行、手指消毒、マスクの着用のほか、常時換気やおもちゃの消毒を行い感染拡大防止対策を講じた。
職場 倫理 及 び 事業 の 向上	(1)	支援員の言動は児童や保護者に大きな影響を与えるため、仕事を進める上での倫理を常に自覚し、育成支援の内容の向上に努めている。 ※自覚すべき事項 ・児童や保護者の人権に十分配慮するとともに、一人ひとりの人格を尊重している。 ・児童虐待等の児童の心身に有害な影響を与える行為をしていない。 ・国籍、信条又は社会的な身分による差別的な扱いをしていない。 ・守秘義務を遵守している。 ・個人情報適切に取り扱い、プライバシーを保護している。 ・保護者に誠実に対応し、信頼関係を構築するよう努めている。 ・支援員間で相互に協力し、研鑽を積みながら、育成支援の内容の向上に努めている。 ・児童ホームの社会的責任や公共性を自覚している。	B 支援員の言動は児童・保護者に多大なる影響を与えることを十分に理解している。全ての児童・保護者関係者に誠実に対応し信頼関係を構築できるよう努めている。
	(2)	児童や保護者等からの要望や苦情に対しては、迅速かつ適切に、誠意を持って対応している。	A 保護者からの要望については支援員間で対応について協議を行い、苦情に関しては真摯に保護者の話に耳を傾け、相手の立場に立った対応を心掛けた。
	(3)	要望や苦情については、その内容や対応について支援員間で共有することにより、育成支援の内容の向上に生かしている。	A 毎日のミーティングで全支援員が共有し意見交換しながら育成支援の向上に生かしている。
	(4)	研修等を通じて、放課後児童の育成支援に必要な知識及び技能の習得、維持及び向上に努めている。	B 研修等を通じて個々に自己研鑽に努めているが、研修内容の共有は徹底できていないホームも見受けられた。